

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 人の存在を伝達する携帯型遠隔操作アンドロイドの研究開発

2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名(研究機関名・職名は研究参加期間終了時点):

研究代表者

石黒 浩 ((株)国際電気通信基礎技術研究所社会メディア総合研究所石黒特別研究所 所長(客員))

主たる共同研究者

中西 英之 (大阪大学大学院工学研究科 准教授)

岩井 儀雄 (鳥取大学大学院工学研究科 教授)

3. 事後評価結果

○評点:

A+ 期待を超える十分な成果が得られている

○総合評価コメント:

人がそこに存在するという感覚(存在感)を高める効果をもつメディアの実現を目指して、存在感の解明、存在感伝達メディアの研究開発とその社会実装と事業化に取り組んだ。存在感仮説に基づき、ミニマルデザインのアプローチによって、テレノイド、ハグビー、エルフォイドなどの存在感メディアを開発し、一部商品化を行うとともに、テレノイドを用いた介護事業会社の設立による事業化を中心とする社会実装を行った。なかでも福祉先進国であるデンマークで高く評価され、デンマークの国家研究プロジェクトにテレノイドを用いた介護サービスが採用されたこと、そのなかで高齢者支援場面で高齢者の対話意欲を引き出し、その結果として認知症高齢者の周辺症状を緩和する効果があることを明らかにした点は特筆される。また、存在感評価に関して、血液中のホルモン分泌を計測することで客観的な存在感評価指標を得ることができた点も高く評価できる。こうした一連の研究を通して、存在感の発現、効果の解明が進むとともに、存在感メディアの設計原理も明らかになりつつある。これらは、当初の期待をはるかに超えるものである。本研究は予定された期間より短時間で終了し、次の段階の研究に発展している。